出生順位と性格 (2)

——3人きょうだいの場合——

浜崎　信行*・依田　　明*

A Study of the Relationship between Siblings in a Three-sibling Family

Nobuyuki HAMAZAKI* and Akira YODA*

SUMMARY

The purpose of this study was to examine the birth order and personality of three siblings referring to the findings by Yoda and Fukatsu (1963), Yoda and Iijima (1980) on the relationship between two siblings.

The subjects were 525 children from fourth to eighth grade, and their mothers. They were asked who was the best or the worst of the three siblings in terms of 51 descriptions of daily activities. Moreover, the masculinity-femininity test from the MMPI was used, but only on child subjects.

The main results were as follows:

(1) The personality trait of the first and the last siblings was almost the same as in previous findings. As for that of the middle siblings, we found, they did their work without complaint, but were apt to fail in their work because of carelessness. These findings were not as clear as those for the first and the last siblings.

(2) The femininity of boys with two sisters was higher than boys in any other combinations of three siblings. Moreover, the femininity of girls with two brothers was also higher than girls in any other combinations of matching structures of three siblings.

(3) As for the distribution of combinations of three siblings, the number of girl-girl-boy matches was more common than any other.

I 目　　的

われわれは，1963年と1980年の2回，ふたりきょうだいであるものを対象に，出生順位と性格の関連を調査分析してきた。1980年調査の結果を要約すると，つぎのようになる。「長子的性格・次子的性格とよんでよいものが，たしかに存在している。しかも，それらの性格群は1963年調査の結果得られたものと，ほぼ同様であった。出生順位と性格とのあいだに明確な関連があることが明らかにされた。この性格差は，長子と次子の生育環境の差違と，わが国のきょうだいをめぐる文化によって生じたものと考えられた。」

* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

今回の調査は，三人きょうだいであるものを対象としている。2回の調査によって明らかにされた長子的性格，次子的性格（ふたりきょうだいであるから，この場合末子的性格といいかえてもよい）のほかに，中間子的性格といえるものが存在しているかどうかをたしかめることを主たる目的にしている。

三人きょうだいは出生順位と性別を考慮すると，8通りにわけられる。性別構成の相違によって，子どもの性度にどのように影響があるかどうかも，あわせて考察する。

II 方　　法

性格特性を調査する項目は，1963年，1980年の調査に用いられたものとまったく同じ，51項目である。それぞれ，日常生活場面でよくみられる行動の記述である。子どもには，「自分をふくめたきょうだいのうち，一番あてはまるものに○印をつけ，一番あてはまらないものに×印をつける」よう指示した。母親には，「あなたの三人のお子さんのなかで，誰が一番あてはまりますか，誰が一番あてはまりませんか」と質問し，○印と×印をつけることを求めた。

性度の測定のためには，MMPI の性度尺度質問項目から，子どもの生活に身近かな項目を抜粋し，表現をやさしく書き改めた。「はい」，「いいえ」の2件法によって回答させた。

III 調 査 対 象

調査対象は，主として神奈川県下の小学校4年生から中学校2年生までの児童生徒で，三人きょうだいであるものと，その母親それぞれ525名である。

出生率の低下のために，きょうだい数は激減した。この年齢層では，三人きょうだいであるものは2割強にすぎない。本学心理科の卒業生が勤務している小・中学校，計13校の協力が得られ，その結果500名を超す資料が集められた。ここに，あらためて謝意を表したい。

調査の対象となった小・中学生を，きょうだいの性別構成，出生順位を表示したのが Table 1 である。

Table 1 は，525名の被調査者のうち，男―男―男という構成の三人きょうだいが75名（14.2%）いる。その第1子が，26名，第2子が28名，第3子が21名いるということをあらわしている。

Table 1 をみると，女―女―男と，女―女―女という構成の三人きょうだいが比較的多いことがわかる。上のふたりの性別から4つのグループ（つまり，男―男，男―女，女―男，女―女）にわけると，上のふたりが女―女であるきょうだいの数がもっとも多い（$p<.05$）。

過去におこなわれたふたりきょうだいの調査では，女―女という性別構成のふたりきょ

Table 1 児童・生徒のきょうだいの性別構成別・出生順位別人数

	第1子	第2子	第3子	合 計	%
男—男—男	26	28	21	75	14.2
男—男—女	28	19	17	64	12.1
男—女—男	26	21	24	71	13.5
男—女—女	18	20	17	55	10.4
女—男—男	18	17	14	49	9.3
女—男—女	24	13	16	53	10.1
女—女—男	31	24	29	84	15.9
女—女—女	28	18	18	74	14.0
合 計	199	170	156	525	100.0
%	37.8	32.3	29.6	100.0	

うだいは，他の3種類の構成のふたりきょうだいにくらべると少人数であった。わが国の親は，一般的に男子をほしがる傾向を持っている。ふたりきょうだいにひとりでも男子が含まれていると，三人目は生まない。上ふたりが女子であると，三人目の男子を期待して3人生む親が多いためであろうと考えていた。今回の被調査者の性別構成の比率をみると，この仮説はたしかめられたといってよい。

IV 調 査 手 続

前述のように，三人きょうだいであるものは，きわめて少数である。子どもの調査は集団で実施するのが望ましいのであるが，技術的に困難であった。そこで，「家族と相談しないで，自分ひとりの判断で記入しなさい」との指示を与え，調査票を自宅に持ち帰らせ記入した後，担任に提出させた。

母親の調査は，封筒に入れた調査票を子どもに持ち帰らせ，記入後封をして担任に提出させた。子どもも母親も，無記名である。

調査は，1984年12月におこなわれた。

V 結 果 と 考 察

1. 性格性特項目の妥当性の検討

調査結果の分析にあたって，まず性格特性を調査した51項目の妥当性を検討した。

a) 被調査者がある性格特性について，きょうだい間に差がないと判断した場合には，三人全員に○印や×印をつけたり，まったく回答しなかったりする。このような回答

をした被調査者が半数以上いたときは，不適格な項目として排除することにした。今回の調査では，該当する項目はなかった。

b)　ある性格特性について，親の回答と子どもの回答が逆の傾向を示すことがある。これらの項目は記述の読みとりかたや，行動の感じとりかたが親と子で違っていることを示している。これらの項目は，性格を記述する項目としては望ましくない。母親と子どもの回答パターンを分析したところ，母子の回答がいちじるしく異っていたものが3つあった。項目3，42，43を分析から除いた。

c)　子どもの回答が，自分もしくはきょうだいにかたよる項目も望ましい項目とはいえない。きょうだいがあてはまるとの回答がかたよった項目はなかった。しかし，自分があてはまるとの回答がかたよった項目は9つ（項目16，23，31，37，42，44，45，50，51）見出された。これらの項目は分析から除いた。

以上の検討の結果，11の項目が妥当性がじゅうぶんでないとの理由で分析から排除された。残り40項目について，検討がすすめられた。

2.　長子的性格・中間子的性格・末子的性格

性格特性に関する40項目について，項目ごとに子どもと母親の回答を合計し，χ^2 検定をおこなった。そして，長子があてはまるとした回答が，中間子や末子があてはまるとした回答よりも有意に多い項目を長子的性格をあらわす項目とした。さらに，中間子があてはまるという回答が，長子や末子より有意に多い項目を中間子的性格をあらわす項目，末子があてはまるという回答が，長子や中間子より有意に多い項目を末子的性格をあらわす項目とした。

結果は，Table 2～4のとおりである。長子的性格が6項目，中間子的性格が3項目，末子的性格が9項目見出されたことになる。

ふたりきょうだいに関する1980年調査では，長子的性格が10項目，末子（次子）的性格が15項目得られている。それにくらべると，今回の結果は項目数が少ない。その理由として，つぎのことが考えられる。

1)　ふたりを比較するのと，3人を比較するのとでは，ふたりの比較のほうがはるかに容易である。

Table 2　長子的性格

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
1	自分の用事を平気で人に押しつけたり頼んだりする	207.62	**
49	何かする時に，人の迷惑になるかどうかをよく考える	190.19	**
29	仕事をする時，ていねいに失敗のないようにする	147.95	**
33	面倒なことは，なるべくしないようにする	100.47	**
21	欲しいものでも，遠慮してしまう	93.83	**
38	お父さんによくしかられる	23.06	**

** $p<.01$

Table 3 中間子的性格

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
39	気に入らないと，すぐに黙りこむ	35.95	**
5	よく考えないうちに仕事をはじめて，失敗することが多い	21.50	**
18	面倒がらないで，仕事を一生懸命にする	20.50	**

** $p<.01$

Table 4 末子的性格

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
30	お母さんにいつも甘ったれている	854.17	**
6	お父さんにいつも甘ったれている	569.60	**
41	お父さんに告げ口する	170.79	**
10	お母さんに告げ口する	160.46	**
36	外へ出て遊んだり，騒いだりする	132.44	**
34	とてもやきもち	129.96	**
28	人にほめられたりすると，すぐお調子に乗ってしまう	102.12	**
40	すぐ「ぼく(私)知っている」などと言って，何でも知っているふりをする	99.77	**
20	少しでも困ることがあると，人に頼ろうとする	78.73	**

** $p<.01$

Table 5 長子的性格（1980年調査）

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
49	何かする時に，人の迷惑になるかどうかをよく考える	71.12	**
21	欲しいものでも，遠慮してしまう	28.27	**
1	自分の用事を平気で人に押しつけたり頼んだりする	28.12	**
9	あまりしゃべらないで，人の話を聞いていることの方が多い	17.01	**
35	お母さんによく口ごたえする	14.36	**
33	面倒なことは，なるべくしないようにする	13.00	**
7	もっと遊んでいたい時でも，やめねばならない時にはすぐやめる	12.86	**
29	仕事をする時，ていねいに失敗のないようにする	10.65	**
14	いつもきちんとしていないと気がすまない	7.39	**
43	よそへ行くと，すましやさんになる	5.83	*

* $p<.05$ ** $p<.01$

2) 3人きょうだいとふたりきょうだいでは，その構造がふたりの場合のほうが単純である。ふたりの生育環境の差は，より明確である。

けれども，今回の調査で得られた長子的性格と末子的性格は80年調査の結果と（項目数は少ないが）ほぼ同じといってよい。前回の結果を，Table 5，6に示したが，長子的性

Table 6 次子（末子）的性格（1980年調査）

項目番号	項目内容	χ^2	p
30	お母さんにいつも甘ったれている	141.36	**
6	お父さんにいつも甘ったれている	85.21	**
10	お母さんに告げ口する	55.11	**
28	人にほめられたりすると，すぐにお調子に乗ってしまう	51.84	**
41	お父さんに告げ口する	36.38	**
34	とてもやきもちやき	34.45	**
4	おしゃべり	31.59	**
36	外へ出て遊んだり，騒いだりする	28.26	**
22	人のまねをするのがじょうず	26.47	**
40	すぐ「ぼく(私)知っているなどと言って，何でも知っているふりをする	24.34	**
12	無理にでも自分の考えを通そうとする	19.28	**
24	食べ物に好き嫌いがたくさんある	16.01	**
20	少しでも困ることがあると，人に頼ろうとする	16.00	**
2	せっかち	9.76	**
16	はきはきして，ほがらか	8.81	**

** $p<.01$

格6項目のうち5項目は前回の結果に含まれている。末子的性格9項目は，すべて前回の結果に含まれている。長子的性格，末子的性格は，きょうだいがふたりであっても3人であっても明瞭に存在している。ということは，長子と末子の生育環境や親の役割期待はきょうだい数とは無関係で，共通なものであることを示している。

中間子的性格は，わずか3項目しか見出せなかった。中間子は，長子や末子にくらべるとその存在は多様である。とくに，長子との年齢差，末子との年齢差が多様さをもたらす最大の要因である。中間子の生育環境は，長子や末子のそれのように共通な部分が少ない。中間子それぞれは，あまり共通性のない独特な環境で育っている。

では，中間子は長子と末子とどちらに似ているのか。中間子と長子をひとつのグループにまとめ，末子とくらべてみる。有意差があるのは，12項目にのぼる（Table 7）。中間子と末子をひとつのグループにまとめ，長子とくらべてみる。有意差のあるのは，5項目にすぎない（Table 8）。この結果，中間子は性格的には末子よりも長子と共通点が多いことが明かになった。

きょうだいのなかでは，末子が他のきょうだいと違った特殊な位置にいる。親は子どもに対して，矛盾したふたつの気持をもっている。ひとつは「一日もはやく自立し，何でも自分でやっていってほしい」というものであり，もうひとつは「いつまでも，かわいらしい子どもでいてほしい」というものである。親は，第一子に対しては自立を期待した態度でしつけをする。下に手のかかる年少児がいるからである。本調査の結果では，三人きょうだいの場合は第二子に対しても自立を期待する気持が強いことが明らかにされた。

一方，親は末っ子に対しては「かわいらしい子ども」を期待し，いつまでも子ども扱い

Table 7 中間子・長子が末子より有意に多い項目

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
46	しなければならないと思った仕事は，最後までやり通す	87.07	**
11	自分の着る物や持ち物についてよく気にする	86.10	**
35	お母さんによく口答えする	69.61	**
47	人の言うことに反対することが多い	47.82	**
48	人の前に出たりするのをきらう	40.14	**
7	もっと遊んでいたい時でも，やめねばならない時にはすぐやめる	28.60	**
14	いつもきちんとしていないと，気がすまない	28.23	**
27	家の人に起こされても，なかなか起きない	21.20	**
15	お父さんによく口答えする	21.02	**
13	お友達に人気がある	18.18	**
19	ときどき，ちょっとずるいことをしたり，ごまかしたりする	10.55	**
12	無理にでも，自分の考えを通そうとする	7.67	*

* $p<.05$ ** $p<.01$

Table 8 中間子・末子が長子より有意に多い項目

項目番号	項　目　内　容	χ^2	p
4	おしゃべり	37.50	**
22	人のまねをするのがじょうず	32.33	**
24	食べ物に好き嫌いがたくさんある	25.09	**
16	はきはきして，ほがらか	20.69	**
17	落ち着きがなくて，いろいろなことに気が散る	8.86	*

* $p<.05$ ** $p<.01$

にする傾向がある。これは，ふたりきょうだいの場合にも，三人きょうだいの場合にも共通している。

末っ子は，家族のなかの最年少者である。家族全員が末っ子を，いわゆる「おみそ」扱いにする。末っ子は，「末っ子は子どもなんだから何をしても許される，年齢不相応な子どもっぽいことをしてもしかたがない」という雰囲気のなかで育てられている。

3. 中間子の性度

MMPIの性度尺度を参考にした性度検査の結果を表示したのが，Table 9 のである。この検査の得点は，0から20までに分布する。得点が高いほど，女性度が高いことを意味する。男子の得点の平均は7.13であり，女子の平均は10.78であった。

異性にかこまれた中間子は，長子と末子の影響を受けて男子の場合は女性度が高く，女子の場合は男性度が高くなるのではないかとも考えられた。

結果をみると，女—男—女という性別構成の中間子である男子の平均得点は7.67で，男

Table 9　MMPI平均得点

構成＼出生順位	第一子	第二子	第三子
男—男—男	7.54	7.32	6.90
男—男—女	6.79	7.11	**10.82**
男—女—男	6.81	**11.35**	7.26
男—女—女	6.83	**10.45**	**9.71**
女—男—男	**11.44**	7.06	6.64
女—男—女	**10.13**	7.67	**11.44**
女—女—男	**11.45**	**11.17**	7.48
女—女—女	**10.71**	**10.21**	**10.39**

ゴチックは女子の得点を示す

子のなかでは最高であり，女性度は高い傾向がみられた。けれども，男—女—男という性別構成の中間子である女子の平均得点は11.35であり，女子の平均を上まわっている。男子に関しては予想どおりの結果が得られたが，女子に関してはそうではなかった。

VI　要　　約

われわれはふたりきょうだいを調査対象として，出生順位と性格の関連を検討してきた(1993, 1980)。その結果，長子的性格，次子（末子）的性格が明確に存在することが明らかにされた。すなわち，長子は自制的で，ひかえめで，仕ごとがていねいで，話すよりも聞き手であり，めんどうなことを嫌う。それに対して，次子は甘ったれで，親に告げ口をし，おしゃべりで，やきもちやきで，強情で，活動的である。

今回は，三人きょうだいを取りあげた。ふたりきょうだいの調査とまったく同じ方法で，出生順位と性格の関連を分析した。調査対象は，主として神奈川県に住む小学校4年生から中学2年生までの児童・生徒とその母親，それぞれ525名である。性格特性に関する資料は，51項目の日常生活における行動の記述が，3人きょうだいの誰にもっともあてはまり，誰にもっともあてはらないかという相対的判断を求めることによって得た。

そのほかに，MMPIの性度尺度を参考に作製した性度検査を実施した。

主要な結果は，つぎのとおりである。

1. 長子的性格は6項目，中間子的性格は3項目，末子的性格は9項目抽出された。長子的性格と末子的性格は，従来見出されたものとほぼ同様であった。
2. 中間子はめんどうくさがらずに仕ごとに取りくむが，よく考えないので失敗も多い。また，気にいらないと黙りこむという特徴を持つ。中間子的性格は，長子的性格，末子的性格にくらべると，あまりはっきりしたものではない。長子と末子の生育

環境は，共通性，一般性が高い。つまり，どこの家庭に生まれても，同じような環境で育っている。このような長子や末子にくらべると，中間子の生育環境は多種多様であると考えられる。長子との年齢差，性別構成などの点で，3人きょうだいはふたりきょうだいよりも，はるかに複雑なものなのである。

3. 姉妹にかこまれた男子の女性度は，他の位置にある男子よりも高い傾向にあった。けれども，兄弟にかこまれた女子の女性度も高い傾向を示した。異性にかこまれて育っても，男子と女子とでは親の役割期待が異っていることを示している。

参 考 文 献

波多野誼余夫（1963）家庭における伝統的序列性と価値観の近代化——きょうだいの差別をめぐって（依田明・清水弘司編　現代のエスプリ，159，きょうだい）至文堂，70～77.
三木安正・天羽幸子（1954 a）兄的性格と弟的性格——双生児研究 1 ——，教心研，2，1～10.
三木安正・天羽幸子（1954 b）双生児にみられる兄弟的性格差異と家庭での取扱い方——双生児研究 2 ——，教心研，2，13～21.
依田明・深津千賀子（1963）出生順位と性格，教心研，11，239～246.
依田明（1967）ひとりっ子・すえっ子，大日本図書。
依田明・飯嶋一恵（1981）出生順位と性格，横浜国立大学教育紀要，21，117～127.

＜付表＞　性格に関する質問項目

1. 自分の用事を平気で人に押しつけたり，頼んだりするのは
2. せっかちなのは
3. お母さんによくしかられるのは
4. おしゃべりなのは
5. よく考えないうちに仕事をはじめて，失敗することが多いのは
6. お父さんにいつも甘ったれるのは
7. もっと遊んでいたい時でも，やめねばならない時にはすぐやめるのは
8. おこずかいをもらうと，早く使ってしまうのは
9. あまりしゃべらないで，人の話を聞いていることの方が多いのは
10. お母さんに告げ口するのは
11. 自分の着るものや持ち物について，よく気にするのは
12. 無理にでも，自分の考えを通そうとするのは
13. お友達に人気があるのは
14. いつもきちんとしていないと，気がすまないのは
15. お父さんによく口ごたえするのは
16. はきはきして，ほがらかなのは
17. 落ち着きがなくて，いろいろなことに気が散るのは
18. 面倒がらないで，仕事を一生懸命にするのは
19. ときどき，ちょっとずるいことをしたり，ごまかしたりするのは
20. 少しでも困ることがあると，人に頼ろうとするのは
21. 欲しいものでも，遠慮してしまうのは
22. 人のまねをするのがじょうずなのは
23. おとなの話にまじろうとするのは
24. 食べ物に好き嫌いがたくさんあるのは
25. お父さんやお母さんのいいつけを，素直に守るのは
26. 何か気にいらないことがあると，すぐに乱暴するのは
27. 家の人に起こされても，なかなか起きないのは

28. 人にほめられたりすると，すぐにお調子に乗ってしまうのは
29. 仕事をする時，ていねいに失敗のないようにするのは
30. お母さんにいつも甘ったれているのは
31. ちょっとしたことでも，すぐに気にするのは
32. よその人の前へ出ると，恥ずかしがるのは
33. 面倒なことは，なるべくしないようにするのは
34. とてもやきもちやきなのは
35. お母さんによくロごたえするのは
36. 外へ出て遊んだり，騒いだりするのは
37. 人に負けるのが嫌いなのは
38. お父さんによくしかられるのは
39. 気に入らないと，すぐに黙りこむのは
40. すぐ，「ぼく(私)知っている」などと言って，何でも知っているふりをするのは
41. お父さんに告げロするのは
42. おもしろいことを言ったりして，人を笑わせるのは
43. よそへ行くと，すましやさんになるのは
44. 宿題があると，気になって楽しく遊べないのは
45. 悲しいことを見たり聞いたりすると，すぐ涙をこぼすのは
46. しなければならないと思った仕事は，最後までやり通すのは
47. 人の言うことに反対することが多いのは
48. 人の前に出たりするのをきらうのは
49. 何かする時に，人の迷惑になるかどうかをよく考えるのは
50. あれこれ迷って，なかなか決心がつかないのは
51. 人に親切にしてあげることが多いのは